

電力量

岡田富男

「先月29日間の電力量が、昨年と同じ時期に比べて145kWh（キロワット時）も増えています」と妻が言う。「きっと、オイルヒータのせいよ。今年から使い始めたのだから」と、オイルヒータが原因だと主張する。冬にはいつも、風呂場と脱衣所はヒートショックを避けるためにファンヒータで暖めている。でも寒い日に限って、入浴中にこれが「ストライキ」を起こす。設定温度20°Cにも拘わらず換気のサインが出て、運転途中でしばしば止まってしまう。窓かドアを開ければよいのであるが、そうはしたくない。妻は考えた。別のヒータも使えばよいのではないかと。そこで、オイルヒータの登場である。電力700Wの威力は抜群である。オイルヒータを使い始めてからは「ストライキ」は起きなかった。そして消費電力量が100kWh以上も増えている。確かに去年はオイルヒータを使わなかった。

本当にオイルヒータのせいなのか。この電力量を見積ってみた。700Wを1日の加熱時間1.5時間で29日間使用したとすると、30.45kWhになる。妻は「ふうん」と言って、数値を見つめる。明らかに疑っている。しかたがないから、昔使った電気回路の教科書を引っ張り出してきて、電力量のページを開いた。そこには電力量の定義と例題が載っていた。妻に読んでもらい、例題に倣って上記の条件で計算してもらった。「あー、そうなんだ！」と納得した様子である。

でも、これだけでは電力量増加の説明はつかない。ほかにも電力量を押し上げたものがあるはずだ。そういえば、その時期に足元を暖める暖房器を購入したことを思い出した。それを使おうとしたら、ヒータを覆っている部分から刺激臭のようなものが出てきた。天日干ししたが消えなかったので、暖房器の設定を最大にして1日8時間加熱し、換気扇で排気した。刺激臭が気にならなくなるまでに19日間も要した。この期間は29日間の中に含まれていた。19日間の暖房器の消費電力量を定格電力253Wで推定したところ38.456kWh、13Wの換気扇は1.976kWhであった。以上3つの機器の消費電力量を合計しても100kWhに達しない。別の電気機器も関わっていることは確かだが、どんな機器がどれだけ使われたのかは分からない。節電での反省点である。

こうして、オイルヒータだけを責めるのは誤りであることに妻は納得したようだ。ところが、オイルヒータは下げられ、代わりに300Wの電気ストーブが持ち込まれた。できるだけ低電力の機器を使うのは妥当なことではある。妻は言う。「電気ストーブはヒータが赤く光るので電気で暖めていることがわかるけど、オイルヒータは見た目では電気をたくさん使っているのがわからないのよ。」見た目が大事?! 幸いにもこの電気ストーブを使っても「ストライキ」は起きていない。

立春はすでに過ぎているが、まだまだ寒い。「暑さ寒さも彼岸まで」を期待して、しばらくファンヒータと電気ストーブの世話になろう。

2024年2月29日